

語学研修を終えて

看護福祉学部 看護学科 1年

今回の語学研修で多くのことを学んだ。語学学習授業では、主に多文化共生についてディスカッションを中心にを行った。日本の大学生だけでなく、韓国から来ている大学生もいた為コミュニケーションをとるには英語を使うしかなかった。しかし、相手の言っていることを理解することや自分が伝えたいことを英語にすることは、思っていたよりも難しく自分の英語力の乏しさを痛感した。それでも、授業中や休み時間は日本人同士でも英語を使って会話するように自分の中で決めたことで、最初の時よりも耳が慣れて英語を聞き取りやすくなった。英語力が向上すれば、相手の文化を知れることだけでなく、文化に参加できその文化特有の言葉にしづらい概念を感じることができるだろう。また、授業の中でネルソン・マンデラの「相手が理解できる言語で話せば、相手の頭に届く。相手の母語で話せば、相手の心に届く」という言葉を習った。この言葉から、英語以外にも言語を学び自分が伝えたいことを相手に全部伝えられるようにしていきたいと思った。

ホームステイでは、エドモントンの人々の暮らしを実際に体験できた。カナダでは庭を持っている家庭が多く、クラブアップルを育てたり、週末はソーセージやマッシュマロを焼いたりすることを知った。都市ではマンションが多く庭を持つ人が少なく、植物に触れる機会が少ないと感じた。ほかにも、ホストマザーとの会話で、移民の受け入れをしているため、カナダには言語別で学校が存在することや人種の系統に近い者同士が近くに住んでいること、国土が広く、自宅が病院から遠くなかなか様子を見に行けない人たちのために病院の近くにはその家族が一時的に住める住宅があることなどを知った。移民の受け入れが寛容であるため、公共交通機関では様々な人種の人たちを見た。日本ではなかなか見られない光景で新鮮さとともに、日本でも移民の受け入れをしてほしいと思った。日本では外国の人と関わる機会が非常に少ない。それが日本人の英語力が乏しい一因になっていると言える。移民の受け入れを行えば、必然的に外国人と関わる機会が増えるだろう。しかし、移民の受け入れ態勢を整えるためには解決しなければならない問題が多すぎる。

今回の語学研修でカナダの暮らしを体験したことから自分に必要な能力や日本の問題まで視野が広がった。どの体験も新鮮で貴重であった。カナダで経験したことを無駄にしないように活用したい。